

⑤皆生温泉観光株式会社 *経営学部3年 高田 弘記さんによるレポート

皆生温泉観光株式会社・OUランドでは、温泉施設の経営、皆生温泉街の取り組み、山陰の温泉観光地のことを教えて頂くことができました。皆生温泉観光株式会社では、事業内容として温泉供給、日帰り温泉施設の経営、ホテル経営を行っています。学生から皆生温泉観光株式会社の方に質問したところ、以下のような回答が得られました。

まず、皆生温泉は海岸に面しているということもあって海水浴客をターゲットにしていると思うのですが、イベントや広告宣伝においてその他の観光客との差別化はどのように行っているのかを聞きました。これについて、主な顧客である海水浴客については、7月・8月の予約が前年の大晦日(正確に言うと、年明け0:00を過ぎた時点)には埋まってしまうほどであり、この分の予約は7月に開催される「トリアスロン皆生大会」関連の予約だそうです。そして、海水浴客についての差別化として「水着のまま入館OK」というサービスを行っていて、砂を洗い流して入館できる専用出入口を設けていました。他方、その他の観光客に対しては皆生温泉街でプラネタリウムや紋様灯籠などのイベントを行うことで集客していることが分かりました。

また、米子と香港の国際線ができたことによって、国際線ができる前に比べて皆生温泉には外国人観光客の方が増えたのか、外国人観光客が皆生温泉に対してどのようなニーズをもっているのか尋ねたところ、境港市に停泊するクルーズ船や航空機の国際線が増えたことにより、韓国、中国、ロシアなどからの集客が増加したという回答を得ることができました。さらに、皆生温泉独自のイベントは少ないですが、山陰や鳥取県全体のイベントを主に行っているということが分かりました。最後に、皆生温泉観光株式会社は県外からの観光客を顧客の中心に据えて経営していますが、地域密着型の会社ということもあって地域住民の方々に愛される施設にすることにも力を入れているという話を伺うことができました。

インタビュー後は、温泉に入り、そのままOUホテルに泊まりました。ビジネスホテルでありながら、それぞれの部屋が広く家族でも泊まれるようなホテルであると感じました。また、ホテルの入り口には源泉のお湯が飲めるコーナーがあり、OUランドならではの施設になっていて初めて温泉のお湯を飲むという経験ができました。OUランドの内装には木目調の自動ドアなどが使用されており、施設全体が落ち着く空間でした。温泉には露天風呂や大風呂などがあり、長時間入っていても飽きないと感じ、日帰り観光客の方でもゆっくり温泉に入ることができると思えました。

合宿2日目の夜には勉強会が行われ、これまでの企業訪問を受けて自分たちなりに考えたことを発表しました。ゼミの仲間との意見交換を通じて、新たな疑問点や今後、調べてみたいことが増え、今後のゼミ活動に繋がる有意義な時間となりました。



OUランド・OUホテル前で